

書字指導における体のみかた③ 見落としがちな左利きの持ち方の指導

左利きの持ち方の特徴～“右の反対”ということではない～

文字の書き順、「とめ」「はね」「はらい」などは、右利きで書くと書きやすいような構造になっています。左利きの場合、手の動かし方が右利きと全く異なることを考慮しておかなければなりません。

例えば右利きの場合、「あ」の最後の「はらい」は、手の外側に向かって払います。しかし、左利きの場合、手の内側に向けて払わなければならない、詰まってしまう感じになります。

このように、書き順や送筆は、右利きを基本としているので、左利きでは書きにくくなります。右持ちの正反対という単純なものではありません。これらを理解したうえで、左利きへの指導が必要になります。



図1 右利き「あ」

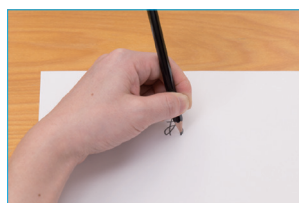


図2 左利き「あ」：運筆が制限され、払えない。

縦書き・横書きの特異性とは

国語などは縦書きであり、上から下に書きます。右利きの場合、上から下に書く時は、筆順の原則は上から下へ向かっているため書きやすいです。しかし、左利きで縦書きの場合は、「とめ」「はらい」が書きにくく、手首を曲げて書くため、文字との位置関係が乱れやすく、丁寧に書けず、粗雑になってきます。

横書きか縦書きかによっても指先の使い方が異なりますので、指導の際、留意する必要があります。例えば算数などの横書きでは、左利きの場合、右側に書き進んでいくので、書いた文字が隠れてしまいます。見えるようにするために、手首を曲げて巻き込みながら書くくせがついてしまいます。



図3 左利き（縦書き）：書いた文字が見えなくなる、下へ書くにつれて手首が折れやすくなる。



図4 左利き（横書き）：書いた文字が隠れて読めない。

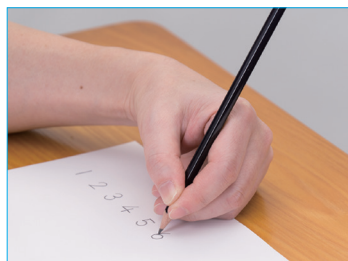


図5 左利き（横書き）：見えるようにするために、手首を折り曲げて書く。

縦書き・横書きの指導のコツ

① 縦書き

平仮名などの字形は曲線を上から下に書くことが多いため、曲線模様の運筆練習がお勧めです。手首を起こすように補助しましょう。

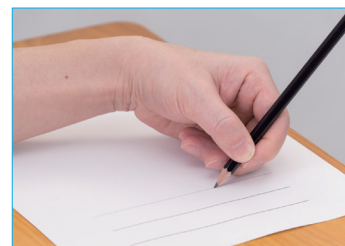


図6 指導前：鉛筆を前方に傾けて、手首を折り曲げて書いている。



図7 指導後：補助なしで、鉛筆は手前に傾けて、手首を反らして線を引く練習をする。

ワークシートのPDFファイルをダウンロードできます。

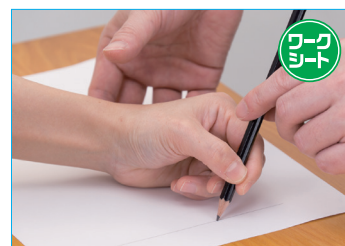


図8 線のなぞり書き練習：手首を反らすように補助してあげて、線のなぞり書き練習をする。



図9 曲線の運筆練習：補助なしで、曲線を書く運筆の練習をする。



図10 文字の運筆練習：補助なしで、実際に文字を書く練習をする。

② 横書き

横線をなぞる運筆練習がお勧めです。その時、手首をサポートし折れ曲がらないように、手首を起こすように補助しましょう。



図11 指導前：線と鉛筆の長軸の位置関係は、鉛筆が前方に傾いている。手首が折れ曲がっている。



図12 指導後：線と鉛筆の長軸の位置関係は、鉛筆が手前に傾いている。手首は反らしている。

文献

- 1) 笹田哲監修「苦手をできるに変えるからだのつくり方 第2巻 手の動き～えんぴつ・ハサミ・箸（DVD版）」アローウィン（2014）
- 2) 笹田哲「気になる子どものできた！が増える 書字指導アラカルト」中央法規（2014）
- 3) 笹田哲「気になる子どものできた！が増える 書字指導ワーク1 字を書くための見る力・認知能力編」中央法規（2014）
- 4) 笹田哲「気になる子どものできた！が増える 書字指導ワーク2 ひらがなの書き方編」中央法規（2014）
- 5) 笹田哲「気になる子どものできた！が増える 書字指導ワーク3 カタカナ・数字の書き方編」中央法規（2014）